

第4回 港湾における i-Construction 推進委員会 議 事 概 要

日 時：令和4年2月15日（火） 13：30～15：30

場 所：Web 会議

1. 主な議事

○事務局より、本年度の i-Construction に係る取組結果等について報告・説明を行った後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

○浚渫工事において、マルチビームクラウドを利用してリアルタイムで日々管理できるようになれば、手直しが少なくなり作業が効率化できるので実現化を望むが、使用するソフトウェアについては、中小企業でも利用しやすい方法の検討を望む。

○正確な潮位計測に向けた取組については、関連機関等の取組みと整合をとって進めることが必要。

○遠隔操作・自動化水中施工システム等の技術を公共機関が開発するにあたっては、既往の民間が保有する類似技術との競合を考慮して進める必要があり、社会実装をどのような形で行うのか検討すべき。

○潜水作業の高度化については、各社で使用システムが異なることから、ソフトウェアの共通化が課題。また、安全性の向上が主目的ではあるが、安全性が確立されることで、生産性向上にもつながる。

○ICT 本土工（ケーソン据付工）では、今まで人間の目で確認していたことを、機械の出力結果で代替えることになるが、新しい手法を用いると新しいミスが生じる可能性があることに注意する必要がある。例えば、チェックシートで基準点のチェックポイントを明確にするなど、ICT 施工では必要に応じて人間の目も併用することも必要。

○陸上での事例も参考にしつつ、上部工の打設や消波ブロックの製作など、港湾工事において中小企業が活躍しているところで ICT 施工管理などの取組みが進められるとよい。

○BIM/CIM 活用業務・工事の新たなリクワイヤメントについては、記載されている項目内容の全てを満足しなければいけないのか、一つでも達成すればいいのか、わかりにくいので説明等に工夫が必要。

○BIM/CIM 試行工事のアンケートにおいては、設計から施工への BIM/CIM モデルの引継ぎがあまり上手くいっていないと判断される結果が出ているので、次段階に BIM/CIM モデルを渡すときの考え方に留意していくことが必要。

以 上